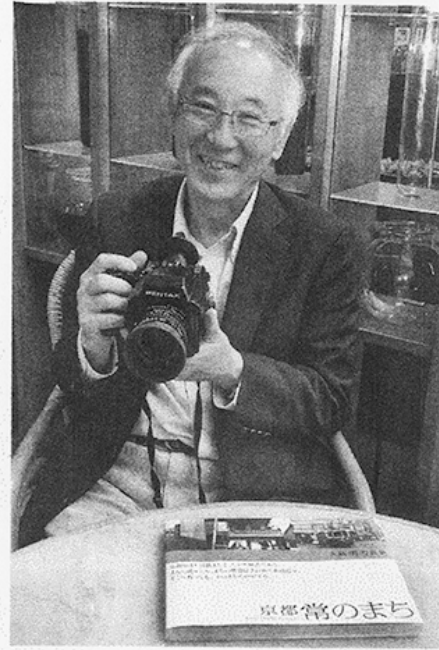


2016.5.15

人 気 元

始まりは何やこれ？



写真集「京都常のまち」を出版したアマチュアカメラマン

大島 明さん(67)

京都市

コインパーキング、西高瀬川、路地裏……。風光明媚(めいび)な観光地で

はなく、京都の「常」を切り取った写真集を出版しました。「飾りたてるまちではなく、無名の市民がつくったものが『京都らしさ』」だと言います。中学生の時、市電を撮るために父親のレンジファインダーカメラを手に取りました。以来、もっ

ばら「撮り鉄」でしたが、大学で地理学を学び、岡山の水島臨海工業地帯の工場なども被写体に。大阪府立高校で35年間、地理教諭を務めました。川床面が周囲の平地より高い位置にある「天井川」の教材に京田辺市の防賀川などを撮りました。

「下手の横好き」を脱しようとして10数年前から写真教室に。07年には、東京の現代写真研究所にも毎月通い、現在は日本リアリズム写真集団の個人会員として毎年「視点」展にも出展しています。まちの写真を撮る時はいつも疑問から始まりまっす。まちを撮るようになってきたきっかけもコインパーキングの多さに「これでもいいのか」と感じたため。「これいいなあ」じゃなく「『なんやこれ？』で撮りたくなるんです」。渡月橋の取水堰はこんな場所にあるのか、水のない川にいつ水があるのか。「まず自分が考えたいものを撮る。それが人に考えてもらえる写真になれば」 (赤松千代)